

令和4年度

施政方針

市川市長 村越 祐民

演説に先立ち配布用として作成しましたので、当日の演説と表現その他に差異があります
ことをご了承ください。

本日、令和4年2月市議会定例会の開催に際し、令和4年度の予算案をはじめとする諸案件の審議をお願いするにあたり、新年度の市政運営に臨む所信の一端を述べさせていただきます。

はじめに

市民の皆様からの信託をいただいて4年、誰もが自分らしく暮らせる豊かなまちに向け、新たな価値を創造するデジタルトランスフォーメーションをはじめ、防災対策や待機児童対策など市政の諸課題の解決に全力で取り組んできました。

この間、東京外かく環状道路の千葉県区間や妙典橋など新たな道路の開通により道路交通網が充実したことで、市内の渋滞が緩和されバスの路線も新設されるなど地域のつながりが強くなり暮らしの利便性が向上しました。

一方で、全国で拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により市民の生活様式は大きく変わりました。

この感染症への対策として、市民の皆様にご感染拡大防止の行動を呼びかけるとともに、切り札であるワクチンを1日でも早く接種できるよう第1庁舎をはじめ市内各所に集団接種会場を設け、体制を強化してきました。

また、飲食店等の休業や時短営業などの影響を受けた市内の事業者を支援するための緊急経済対策のほか、イベントの中止や延期により失ったまちの活力を取り戻すため、オンラインで「市民まつり」を開催するなど様々な取り組みを行ってきました。

これらの取り組みを実施できたのも、歳入、歳出を常に見直し、既存の市民サービスが低下することのないよう、筋肉質でスリムな予算編成を行ってきたからです。このような堅実な財政運営に努めてきたことから、災害などの不測の事態に備える財政調整基金の残高は過去最高額となり、その結果、機動的で効果的な新型コロナウイルス感染症対策を行うことができました。

これらの対策にご理解、ご尽力をいただいております事業者並びに、市民の皆様にご改めて感謝いたしますとともに引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

感染拡大が落ち着いた後のエンデミックを見据え、将来に渡って、誰ひとり取り残さない、多様性が尊重され、安全に安心して暮らせる持続可能なまちづくりを行うため、企業における事業活動の信頼性の指標となる環境・社会・企業統治を意味するESGの考え方を行政運営にさらに取り入れていきます。

この考え方を本市に対するひとつの評価基準として、市民の目線に立った効果的な施策の立案につなげることで、将来に渡って成長を続け、市民の皆様へ選ばれ、住み続けていただけるまちを目指します。

市政運営の基本方針

市民の生命と財産を守り、安心して暮らすことができるまちを次の世代に引き継いでいくことが私の使命です。そのための新年度における市政運営に向けた基本的な方針を述べさせていただきます。

【市民の生命と財産を守る】

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、2回のワクチン接種が終わった市民の皆様にも一刻も早い接種を実現するため、1月より接種間隔を6ヵ月間に前倒しして3回目の接種を行っています。これまでの感染拡大防止対策に併せて、引き続き影響を受けている方々への適切な支援を行うことで市民の皆様の生活と命を守ります。

また、近年の台風の大型化や集中豪雨など気候変動の影響とみられる現象が身近に迫っています。市民の皆様が安心して暮らすため、これまでの治水対策を進め内水氾濫を防ぐとともに、道路や下水道などの社会基盤を整備することで災害に強いまちをつくります。

さらに、市長に就任してから繰り返し申し上げてきた「環境に責任をもつまち」に向けて、温室効果ガスの削減など、これまで以上に脱炭素社会への歩みを着実に進めます。

【人と人とのつながりを取り戻す】

地域の活力は人と人との触れ合いから生まれるものです。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動も制限を受けました。そこで、地域の活力を取り戻すため、多くの人々が参加できるイベントや自治会等への支援を行います。

人との出会いは、それまで気が付かなかった新しい自分の発見につながり、人生をより豊かにします。これからの公共施設は、自宅でも職場でもなく誰もが気軽に立ち寄れ、そこで新たな交流が生まれる場所にしたいと考えています。

昨年、市川駅前にオープンした「市本」や妙典地区の「地域コミュニティゾーン」も、このような考え方を取り入れて整備しています。

【まちの魅力を高める】

私は、現実を漫然と受け入れるのではなく、自ら望む姿を描き、今、何をすべきかを考え、常に未来を見据えて仕事をしてきました。

第1庁舎の全面開庁に合わせて開始したワンストップサービスは、デジタルトランスフォーメーションにより利用者目線の価値を創造し、ワンズオンリー、そして電子市役所へと着実に進化させていきます。

それにより、さらに市民の皆様が便利で暮らしやすいまちを実感できると考えています。

昨年、待機児童ゼロを達成しましたが、今後も保育需要の増加が見込まれるため、保育園整備を進め待機児童ゼロを維持します。

また、子どもの教育がまちの成長につながると考え、教育委員会と一層の連携を図り、子どもたちの可能性を広げるための教育環境を整備します。

将来を担う子どもたちをはじめ、高齢の方や障がいをお持ちの方にも支援を続けます。

東京2020オリンピック・パラリンピックで高まったスポーツへの機運を逃さないようスポーツ施設の整備を進め、健康づくりを促進し生涯にわたって生き生きと暮らせる社会をつくりまします。

また、日常から芸術に触れ、市民の皆様が彩りのある生活を送っていただけるよう、文化の薫りの高いまちを目指します。

私は、市民の皆様が、市川市に住んでいることを誇りに思ってもらいたいと考えています。

本市は、東京の近郊にありながら豊かな自然に恵まれ、高等教育機関が集まり、多くの史跡や寺社を有し、古くから文人墨客に愛されるなど、価値の高い無双のまちです。

次の世代にこのまちの豊かさをつないでいくために、様々な情報を発信してまちの魅力を広く伝え、市内外の方々の関心を高めることが重要であると考えています。

将来都市像の実現に向けて（主な施策）

基本方針に基づいて取り組む新年度の主な施策につきましては、その目的に沿って述べさせていただきます。

（1）真の豊かさを感じるまち

はじめに、真の豊かさを感じるまちについてです。

誰もが自分らしく暮らしたいと願っています。そのために、市民が安心して暮らせる環境や多様な考えを尊重できるまちをつくります。

新型コロナウイルス感染症対策として、公共施設をはじめ、子どもの施設や福祉施設などに消毒用品や手袋、その他、必要な備品を配備し市民の皆様安心してご利用いただけるようにします。

また万が一、新型コロナウイルスに感染し自宅での療養を余儀なくされた方や濃厚接触者となった方は外出が制限されてしまいます。この様な方々に食料品や日用品を配送することで生活を維持できるように支援します。

妊娠期の母体への感染リスクや経済的負担を軽減するため、妊婦健康診査や新型コロナワクチン接種の際に利用したタクシー料金の一部助成を引き続き実施します。

様々なご家庭の事情から、育児について心配する方もいます。出産後に家族から十分なサポートが受けられず、産後の体力回復や子育てに不安を感じている方を対象に、産科医療機関等で十分な休息をとりながら、助産師などに授乳や育児の相談等を行うことで、産後うつや育児不安を予防します。

また、「こころの健康相談」につきましても、専門職により365日対応している相談を継続し利用しやすい体制整備を進めます。

待機児童ゼロを継続するため、引き続き保育園の整備を行うことで定員を拡大するとともに、より安心して子どもを預けることができるよう保育の質を高めていきます。

さらに、子どもの病気などの治療中や回復期に家庭での保育が難しい方を対象として、診療所併設型の施設や保育園でお預かりする病児・病後児保育を行います。

多様性を尊重し、誰もが自分らしく暮らすことができるよう、パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度を開始しました。これからは、この制度の周知、普及をすすめ、LGBTQなどの性的マイノリティに対する理解を深めます。

国府台公園は、スポーツ施設としての機能向上と公園環境の改善のため、野球場の建て替えをはじめとした再整備を進めています。また、市民体育館などについては、改修工事や設備の修繕を行い、快適なスポーツ環境づくりを進めます。

前期高齢者が多い市域南部に、生きがいづくり、仲間づくりのできる「介護予防センター」の整備を進めます。ここでは、地域への社会参加のきっかけづくりや、健康寿命延伸のための体操教室なども実施し介護の予防に努めます。

障がい者や高齢者、介護を必要とする世帯のうち、ごみを集積所まで運ぶことが困難な方については、ごみ出しの負担を軽減するために玄関先までごみの収集に伺うとともに生活状況の確認を行います。

(2) 彩り豊かな文化と芸術を育むまち

次に、彩り豊かな文化と芸術を育むまちについてです。

本市には、ゆかりのある芸術家や文化人の活動のほか、万葉の歌などに象徴される歴史文化や暮らしの中に息づく「まちの文化」があります。これらを地域に深く根づかせ、育むことで日々の生活を豊かにします。

優れた芸術作品は人々の心に感動をもたらし、生活に安らぎと潤いを与えます。本市の収蔵作品をデジタル化し、オンライン配信することで、芸術をより身近なものとしします。

市川市文化会館が大規模改修を終え 4 月からリニューアルオープンします。今後も行徳文化ホール I & I などの文化芸術の拠点となる施設を安心してご利用いただけるよう計画的に改修を進めます。

様々な国の文化や慣習に触れ、相互理解を深めることが多文化共生社会につながります。姉妹都市やパートナーシティ等を通じて、外国との交流を促進することで外国の文化の理解や友好と親善を図り、先方の先進事例に学び市政に応用します。

さらに、在住外国人向け日本語教室で指導するボランティアの講師に対して、スキルアップにつながる研修を実施することで、在住外国人の日本語能力の向上と地域での交流の活性化を支援します。

(3) 安全で快適な魅力あるまち

次に、安全で快適な魅力あるまちについてです。

誰もが安心して暮らせる安全な都市環境を確保し、人と人がつながる新しい公共施設を整備することでまちの魅力を高めます。

災害はいつ発生するかわからないからこそ、日頃の準備が重要です。地震や台風などの自然災害による大規模な停電に備えて、LED バルーンライトやソーラー付き蓄電池を避難所に配備することで、長期停電に対応した避難所を整備します。

震災等による断水や停電などで、多くのトイレが使えなくなります。避難した方が使用するマンホールトイレを計画的に整備し、災害時も衛生的な避難所生活を送れるようにします。

近年の台風の大型化や集中豪雨などにより、浸水被害の発生リスクが高まってきました。本市の治水対策を確実に進めるため、幹線排水路を整備し、ポンプの排水能力を高めることで浸水被害を軽減するとともに、老朽化した水防倉庫の建て替えを行い水害対策を強化します。

下水道の整備は公衆衛生の向上や河川、海などの水質の保全につながります。引き続き下水道の早期整備に取り組み普及率の向上を目指します。さらに市街化区域と市街化調整区域の境にある下水道管を有効活用し、市街化調整区域側からも接続を可能とすることで、下水道の利用を広げ地域の生活環境の維持に努めます。

東京外かく環状道路の開通により沿線の環境も大きく変わりました。この道路と立体交差する京成電鉄の菅野駅周辺に駐車場やタクシールール、駐輪場等を整備することで駅を利用する方や周辺住民の利便性を高めます。

主要駅の周辺や通学路、幹線道路等の歩道の段差解消や道路の拡幅を進めることで、子どもから大人まで誰もが安全、快適に利用することができる歩行空間を確保します。

市内経済の活性化には消費者と事業者双方への施策が必要です。消費活動が促進される取り組みのひとつとして、商店会等が開催するイベントへの補助や商店街の店舗を利用する方の利便性を向上させるためのバリアフリー化などに対する補助のほか、中小企業者に対する資金繰り支援などを行うことで市内経済の発展につなげます。

本市は都心に近接しているながら、知名度が高く長い歴史のある梨の栽培や海に面した立地を生かした海苔の養殖などが営まれています。

トマトやシクラメンなど付加価値が高い農作物の生産をビニールハウスなどの園芸用施設で新たにはじめたい方や、施設規模を拡大したい農業者への支援などを行い、本市の農業の活性化を図ります。

また、歴史ある水産業を維持するため、浚渫による航路整備を行い、安全で効率的な漁業活動を支援します。

妙典地区の「地域コミュニティゾーン」では、公私連携型保育所・児童発達支援センター、少年野球場、公園などを整備し、子どもから大人まで、誰もが楽しむことができる地域交流の拠点をつくります。

八幡地区では、老朽化した八幡分庁舎や中央公民館等を、市民の交流や教養を育む場、子育て支援や本と触れ合える場などの機能を備えた複合施設として整備します。

(4) 人と自然が共生するまち

次に人と自然が共生するまちについてです。

自然と共生し快適で住みやすい環境を未来に継承するために、環境への負荷軽減を進めます。

安心して暮らせる持続可能な社会を実現するため、脱炭素化を加速させる施策として、電気自動車の購入や太陽光発電設備の設置にかかる費用を助成します。

本市の公用車についても、電気自動車など環境性能を重視した次世代自動車への切り替えを促進し脱炭素社会に向けて取り組みます。

併せて、ごみの焼却で生み出される電力を活用した電気自動車の充電施設を整備し、エネルギーの地産地消や再生可能エネルギーの利用を進め「環境に責任をもつまち」を実現します。

そのほか、学校の照明の LED 化を進めるなど、公共施設の省エネルギーを推進します。

循環型社会を形成するためには継続的・安定的な廃棄物処理が求められます。現クリーンセンターについては、施設の機能を維持するとともに、ごみの焼却により発生する焼却灰をセメント原料や路盤材として活用するなど資源化を計画的に進め、埋め立て処分量を減らしていきます。

また、新クリーンセンターの建設については、あるべき姿を見据えて適切に進めます。

木々の緑は、生活に安らぎをもたらしてくれる欠かせない資源です。本市の貴重な緑を守るため、倒木の防止をはじめとした森林の適切な整備、その担い手を育成するための支援、木材利用の普及啓発など森林環境譲与税基金の活用方法を検討します。

公園は市民にとっての憩いの場です。安全性や快適性を確保するために日常の点検や整備を徹底します。じゅんさい池緑地では、水源の水量が少なくなることによる水質の悪化を防ぐため、新しい井戸を増設することで水辺の生物や植物の生育環境を維持します。

本年度で開園 35 周年を迎える動植物園は、大町レクリエーションゾーンの中心的な役割を担ってきました。これまでのモルモットやウサギなどとのふれあいはじめ、昨年仲間入りしたアルパカや迫力ある鷹のショーなどに加え、屋内で動物と親しめるゾーンを開設するなど魅力ある動植物園作りを進めていきます。

(5) 市民と行政がともに築くまち

最後に、市民と行政がともに築くまちについてです。

誰もが快適に暮らすために、市民と行政が「ともに考え」「ともに選び」「ともに行動する」協働によるまちづくりを進めます。

市長に就任して以来、デジタルトランスフォーメーションを推進するため市内の業務の効率化を進めてきました。引き続き、定型業務を自動的に行う R P A 等を活用し業務の効率化を図ります。

デジタルトランスフォーメーションの次のステップとして、1 度提出した情報を重複して提出することの無いワンズオンリーに向け、取り組みを進めます。

手続きのためだけに、訪れる必要が無くなる電子市役所の実現に向けて、オンラインで申請できる手続きを増やすとともに、申請の内容に応じて、マイナンバーカードによる公的個人認証機能やオンライン決済機能が利用できるように環境を整備します。

自治会の活動が活性化することは、地域住民のつながりを深めるだけでなく、防災面においても重要です。引き続き自治会活動をサポートするために集会施設の整備に対する補助や自治会への加入促進のほか、地域の盆踊りなどの自治会が行うイベントへの支援を継続します。

魅力的なまちづくりのためには、市民の皆様に市政に参加していただくことが必要です。市の広報媒体の情報発信力をより強化するため、分かりやすく親しみのあるイラストやデザインを使うことで市政への関心を高めます。

以上、新年度における主な施策とさせていただきます。

むすび

本市のキャッチフレーズである「いつも新しい流れがある市川」を全職員が共有し、新しいことにも果敢に挑戦する気持ちを持って、市民サービスのさらなる向上に取り組んでまいります。

なお、新年度予算は、新規・拡大事業等の政策的な経費を除いた「骨格予算」となりますが、継続的に進めていく必要があるワクチン接種などの新型コロナウイルス感染症対策費や、保育園の整備・運営費をはじめとした社会保障関係経費といった着実に実施すべき事業の経費を計上したほか、当初予算への計上を見送った「肉付け予算」の財源確保にも努めたことにより、新年度の予算は、一般会計では前年度当初比4.4%増の1,668億円としました。また、特別会計全体では、前年度当初比2.7%増の768億3,100万円、公営企業会計は前年度当初比16.4%増の230億9,500万円としたところです。

その結果、一般会計と特別会計に公営企業会計を合わせた予算額は、前年度当初比4.8%増の2,667億2,600万円となりました。

今後も、新型コロナウイルス感染症の再拡大等による経済低迷のリスクなど、本市の財政を取り巻く環境は不透明であるため、堅実な財政運営に努めるとともに、引き続き感染症対策を徹底するなど、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりに努めてまいります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援をお願い申し上げまして、新年度の施政方針といたします。